

平成28年度（上半期）千葉県袖ヶ浦福祉センター
指定管理者管理運営状況評価に対する今後の改善計画
（社会福祉法人千葉県社会福祉事業団による作成）

資料2

【 更 生 園 】

指定管理者管理運営状況評価			対策、今後の計画等
評価項目	評価	評価理由等	
事業の企画運営に関する事項 事業の実施（必須事業）	B	・強度行動障害者支援に関する支援技術が向上するよう、引き続き努力すること。	・強度行動障害者の支援では、これまでの課題活動の他、作業種としてリサイクル事業の受託を行い、支援の技術向上につなげた。 ・強度行動障害者支援者養成研修に、講師とファシリテーターとして、4名を派遣した。 ・強度行動障害者支援者養成研修に23名を参加させた。 ・3月の強度行動障害者支援者養成研修の実践研修に1名を参加させる。（募集要領で1事業所につき1名の参加制限有り） ・来年度も引き続き、強度行動障害者支援者養成研修に職員を参加させる。
		・利用者が民間施設や地域に移行できるよう、専門組織の創設も視野に入れ、より確固とした支援体制の構築に努めること。	・地域移行担当として、主担当を第1支援グループのサブマネージャーとし、サブ担当を第2支援グループのサブマネージャーとし、統括を施設長が行うこととしている。 ・専門組織の創設については、次年度の事業体制の中で設置する予定である。更生園内に「地域移行推進班」を設置し、月1回の定例会を行い地域移行を進める。 ・引き続き、ご家族への啓発と情報提供、個別面談を通して、5月頃から年5回保護者と共に施設等の見学機会を設定する等地域移行を進める。
利用者意見の反映 利用者満足度	B	・利用者本位のサービスの実現に向け、苦情解決の窓口機能が充実するよう検討すること。	・今年度、月1回の相談日には、第三者委員の巡回、利用者との面談、職員との面談等を行って、要望や意見等を聞き取っている。 ・苦情解決制度の窓口機能の充実については、2月19日に、更生園保護者向けに、第三者委員2人を講師として招いて研修会を実施した。不参加者には資料を送付し、周知と制度への理解を深め、保護者に対して意識付けを行う機会とした。
		・本人も福祉や権利擁護に触れられる本人部会の創設等、利用者意見の更なる把握に努めること。	・職員が利用者の声を傾聴し、理解を深めることの徹底を図り、行事、外出、趣味や衣類等、日常生活の中で利用者本人が選択、体験する機会を、個々の状況に合わせて提供できるよう各寮に本人部会を設置し、要望・困りごとを挙げていき、対応・解決していく。 ・平成29年度から、職員が利用者と一緒に食事をとれるよう検討する他、利用者意見の反映については、月1回の給食運営会議に本人が参加できる機会を設けるよう検討している。 ・栄養士が定期的に5月から全寮の食堂を巡回するようになり、改善事項や要望等を話し合う機会が増えており、意見を集約することで満足度を上げていきたい。

平成28年度（上半期）千葉県袖ヶ浦福祉センター
指定管理者管理運営状況評価に対する今後の改善計画
（社会福祉法人千葉県社会福祉事業団による作成）

【 養 育 園 】

指定管理者管理運営状況評価			対策、今後の計画等
評価項目	評価	評価理由等	
事業の企画運営に関する事項 事業の実施（必須事業）		<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害者支援に関する支援技術が向上するよう、引き続き努力すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、一年間の『強度行動障害のある方の支援者に対する研修』に1人を参加させた。 ・強度行動障害支援者養成研修に、講師とファシリテーターとして、1名を派遣した。 ・強度行動障害支援者養成研修に20名を参加させた。 ・3月の強度行動障害支援者養成研修の実践研修に1名を参加させる。 ・来年度も引き続き、強度行動障害支援者養成研修に職員を参加させる。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が民間施設や地域に移行できるよう、専門組織の創設も視野に入れ、より確固とした支援体制の構築に努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域移行に向けては、施設長・マネージャー・サブマネージャー・各リーダー等をメンバーとした養育園移行推進委員会を毎月開催している。各班の移行に向けた進捗状況の確認、今後の移行先の情報、移行の推移について確認、情報交換を行う。 ・平成28年10月に、情報の集約を行う統括者（リーダー）を設置し、各寮からの情報を一元化している。各寮の児童の移行を進める際、当該寮の児童以外の移行情報を一元化することで、全寮の児童に関わる情報を共有化し、各リーダー等が他寮の児童の移行を念頭に置き移行を図れるよう進めている。また、パーソナルサポーターからも地域の情報などを頂き、地域移行に活かしている。 ・今後も、養育園移行推進委員会を中心に、児童の移行に向けて情報を集約し、各関係機関と連携を図り移行の取り組みを継続する。
利用者意見の反映 利用者満足度		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本位のサービスの実現に向け、苦情解決の窓口機能が充実するよう検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、苦情解決第三者委員、楨の実特別支援学校教諭らによる巡回を実施している。今後も巡回を継続し、意見を頂く機会とする。 ・苦情解決第三者委員と職員との面談を継続して行うと共に、児童との面談を実施しており、その機会をさらに増やすよう努める。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本人も福祉や権利擁護に触れられる本人部会の創設等、利用者意見の更なる把握に努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人部会については児童ミーティングを創設し、その中で栄養士と児童との給食会議を開催し、児童の意見の把握に努めている。今後は議題を外出先や日常生活全般に広げ、要望や困ったことを話し合う機会を設け、対応、解決を図る予定である。 ・今後も更に、職員、訪問する家族や関係者、第三者委員等が児童本人達と懇談等する機会を増やし、児童の希望する外出、行事、余暇や趣味等を児童本人が選択する機会を提供できるよう検討する。 ・5月から開始した栄養士の定期的な全寮を対象とした食事巡回の際、児童から直接話を聞く機会を設けており、希望するメニューを取り入れたり、提供の工夫を行っている。今後も上記の児童ミーティングを含め、専門職らと話す機会を増やし、児童の意見を把握しメニュー、提供方法等へ反映させていく予定である。併せて、平成29年度から職員が児童と一緒に食事をとれるよう検討する。